



第5回 交流会

◆ 海の鳥、森の鳥なんちゃって……ちゃんとした鳥見会

2017年2月5日（日）



今年初の交流会は久しぶりに鳥の観察会です。鳥を見るなら早朝に限る！ということで、早朝オプションをつくりました。早朝組は5名が8:00に水道広場集合。

三崎口駅前組7名は10:18のバスで小網代バス停へ。10:33小網代バス停下車、徒歩3分ほどで絶景ポイントにさしかかるのですが、生憎のお天気で富士山は見えませんでした。

10:45頃、漁港で早朝組と合流、講師の紹介とご挨拶のあと漁港で鳥見。詳しくは後述の講師のお話をお読みください。

11:15に漁港を出発、眺望テラスを經由してエノキテラスへ、お昼から雨になるというので、昼食前に、鳥合わせをしました。空模様のあやしさにも関わらず、30種もの鳥を確認していました。お弁当を食べながら、本日のお楽しみ「鳥の漢字づくり」。珍作・名作・迷作が出るわ出るわというところで、折からの雨。ひげ爺の栖へ移動して続行しました。

（文・橋 美千代 写真・高橋伸和）

本日見聞きした鳥たち

・海で見た鳥

オオバン、カワウ、アオサギ、カンムリカイツブリ、ホシハジロ、ミサゴ、トビ



ミサゴ
魚を捕まえています



アオサギ 大きなヒラメですね！

・森中で見聞きした鳥

ウソ、ムクドリ、アオゲラ（声）、ウグイス、キジバト、シジュウカラ、シメ、
 ジョウビタキ（声）、ハクセキレイ、ハイタカ、コジュケイ（声）、コゲラ（声）、
 ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、モズ、メジロ、ホオジロ（♂）、アオジ、カワラヒワ、
 スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス



アオジ



カワラヒワ

今回の交流会は鳥の観察と言うことで早朝コースを設けましたが、どんな鳥に出会えるかの期待と少しの不安が入り混じっていました。しかし、森の入口、ひげ爺の栖の横で5羽のウソの出迎え、水道広場ではツグミやヒヨドリを間近に観察と幸先のいい出だしとなりました。

水道広場からやなぎテラスへは、地上近くにアオジを、頭上にメジロを見ながらの下りでした。えのきテラスを通過して小網代湾ではカンムリカイツブリ、アカテガニ広場ではモズを観察。合流時間も近づいてきたので漁港へ移動。途中でウグイスの地鳴き“ジャ、ジャ”が近くに聞こえたので、鳴き声近くの動く枝の周りを注視しウグイスの姿を確認。藪の中を移動するウグイスは、声は聞きますが姿はなかなか見ることができないので良かったと思います。

港で後続組と合流し、オオバンやホシハジロ、カワウ、アオサギ、カンムリカイツブリを観察。港を出発するとすぐミサゴが出現。観察していると、湾奥を回りながら水面をまるでスケートのように何度も滑走。通常は上空でホバリングしながら魚に狙いをつけ急降下して魚を捕まえるのですが、今回は数メートルにわたって足の爪で水面をさらっているようで、魚を捕まえようとしているのか、飛翔の練習をしているのか、また遊んでいるのかわかりませんが初めて見るミサゴの行動でした。

エノキテラスへは、次から次へ出てくるアオジをゆっくり観察。エノキテラスで今日の鳥見は終了し、中央の谷を通過して水道広場へ戻った。外来種のガビチョウの鳴き声は無く、常連のアカハラやカワセミ、マガモ、ウミネコなどには出会えませんでした。多くの鳥との出会い、また面白い行動を観察することができ、心身ともに充実した一日でした。



囀るウグイス（2016年7月）

（文・別府史郎 写真・須藤伸三、別府史郎）



モズ

●●● ご参加の皆さまに感想をいただきました ●●●

- ・早朝コース またやってください！ 次は参加します。
- ・8時組で参加させていただきました。
講師の先生に教えて頂きながら多くの鳥を見ることができ、ゆったりと幸せな時間でした。
さがし方のコツも教わって、楽しみが増えました。A.M
- ・バードウォッチングはいつものことながら動きについていけないのが情けない。
30種以上は居たらしいが、5・6種がかりうじて見た？ と思ったおそまつな結果でした。K.S
- ・朝の水道広場入口から参加しました。始めに見つけたのが、リスの巣、ちょっとガッカリ。
その後、静かに歩いて、鳥の声と姿の見つけ方を教えてもらい、ゆっくり、楽しみながら、探しながら、おもしろかったです。Y.M
- ・鳥の眼を持つ達人と共に森を歩きました。本当にたくさんいるのに驚きました。Y.N
- ・忙しく餌をついばむオオバン、クイナ科と教えてもらってびっくり！
ボートの上でのんびりお休み中のカンムリカイツブリとか、愛らしいメジロやアオジ。おかげさまで沢山の鳥を見ることができました。講師の須藤さん、別府さんありがとうございます。またお願いします。M.H

●●● 鳥の漢字 発表会 ●●●

大急ぎで
駆けつけます！



おつりがたな

ウソをつく鳥、
結婚しようとか、
オレオレとか……



カク

影にまぎれて
かくれんぼ、
黒装束の忍者です。



からす

みんな大好き、
おいしいアレ！



からあげ

空飛ぶ鳥の姿は
●●●●●



しろこ

トリ年の次は？
私ですワン



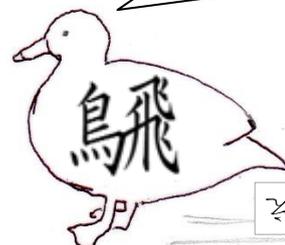
いぬ

春のうわさか？
恋のうわさか？
それとも縄張り宣言？



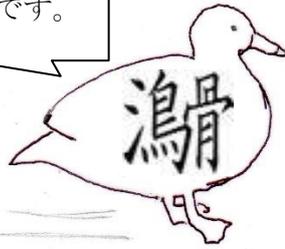
さえずり

鳥が飛ぶのは
●●●●●だけど、
飛ばない鳥もいますね。



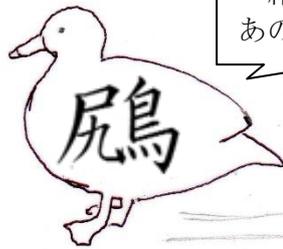
あたりまえ

ラーメンは、
さっぱりが好きです。



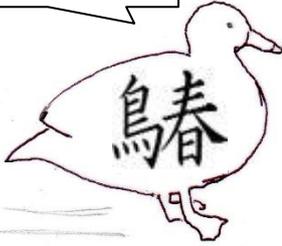
鰯

大人も子どもも、
一緒に盛り上がる
あのゲームよ



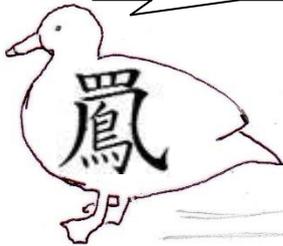
尻鳥

この子のさえずりが
聞こえると……春で
すね～ (´▽`*)



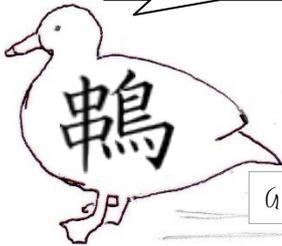
鶺鴒

くるくる、くるくる
風まかせ。屋根の上
にいることが多いです。



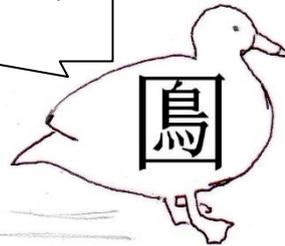
鳳

煙と臭いには
気をつけたい。



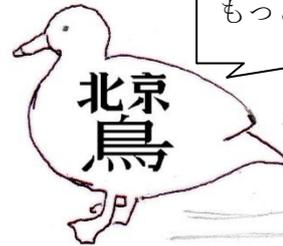
鶇

か～ごめ、かごめ



鳥

説明不要
もっと食べたい！



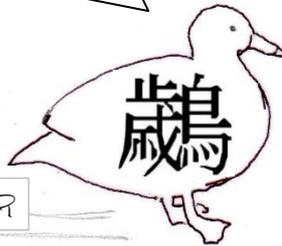
北京鳥

余が辞書に
守秘義務はない！



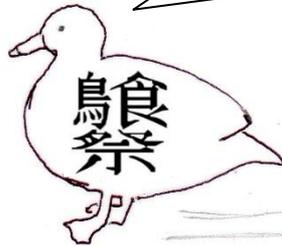
九宮鳥

正に 今年です！



歳鳥

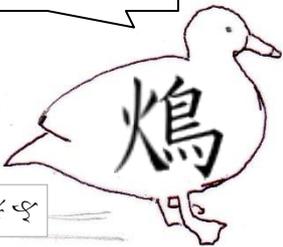
鳥を食べてお祝いする、
あのお祭り



鶯

・前号のおさらい問題

手塚治虫氏の
未完の大作を
カタカナで…



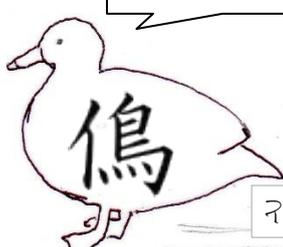
鳩

意外と
近くにあるんです。



鶺鴒

鳥みたいに空を
飛びたい！
夢を叶えた人



鶯

三浦半島の植物

今回は 2011 年 3 月の作品「フキノトウ」をご紹介します。
ほろっと苦い早春の味、フキ味噌やかき揚げにしても美味しいですね、けれど食べるだけじゃもったいない。
野内さんが生き生きと描いた華やかな祝福の春です。

フキノトウ 2011 年 3 月



早春の日
ころんと見つけたフキノトウ
やがて 眠たいような白い花をつける
そこまでは知っていた
のちに大きく葉を広げるその地下に
したたかな太い根を蓄えていることを
画家は見落としてたりしなかったのだ

画 野内真理子
詩 中井由実

随想 小網代てんてん (25)

早春のハンノキ平で

須田漢一

ハンノキ平、と誰が名付けたのだろう。ここは、ボードウォークの敷かれていない土の道だ。

鳥や虫のにぎやかな動きがまだ見られない早春——真青な空をバックにハンノキを仰ぐ。

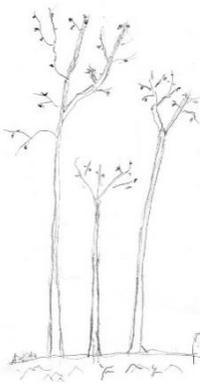
高さ10メートルほどあろうか、下枝は無く、すらり、と言おうか、ひよろつ、と言おうか、幹を南側へ傾け、かすかにゆれている。樹冠部には、前年の花穂だろうか黒い点、点が見える。やわらかな陽がハンノキを静かにあたためている。葉が淡緑色に輝く華やかな季節ときをむかえるのは、もう少しなのだ。

カバノキ科ハンノキは、低地の湿った所に生える。根に根粒菌こぶりぐみんが共生し、空気中の窒素を固定することから、かつては田んぼのまわりの土の改良をかね、肥料木に利用された。このハンノキも、そうした目的で植えられたものか、何かに運ばれた種子が芽生えたものか想像に難くない。ハンノキは別名ハリノキとも呼ばれる。ハリは

ニイバリニイバリ(新墾)などという時に用いる墾はりで開墾を意味する。稲作を行おうとするとき、人はまず遊水地に目を向けた。水の豊かなそこは、湿地を好むハンノキが自生している、田を造るのに適した土地だった。

日本列島のハンノキは約六〇〇〇万年前の新世代・古第三紀の頃(白亜紀の後)に生まれた木だという。人間のいない列島(もちろん地球上に人類はいない)に長く生き続いて、はるかな時を経て、ヒトがこの列島にぼつぼつと生活を始める姿を、代々のハンノキはじつと見つけてきた。このハンノキは何世代目のものかわからないが、そのからだには、そうした遺伝子がしっかりと受けつがれていることだろう。

ハンノキに限ったことではないが、植物の誕生によつて、昆虫、動物、鳥類、そして人も、直接か間接かにかかわらず、それに依存してきた。人は植物なしでは生きられないが、植物は人がいなくても困ることはない。むしろ、やたらにまわりをいじくりまわす人類は、無用だと思つているのかも知れない。



人は、自分が、ふと、自然の中の一員だと思つたとき、自分たちより先に在あつたものを自おのずと意識する。だから先住者である植物に対して、人の心は左右される。

冬——植物が寒さに耐えているのを見ると、人も負けずに耐えようとする。夏——日照りや濁水で草木がぐったりしていると、人の心も萎える。春——若葉の輝きに、新たな喜びと生きる力を感じる。

明るい光を好むハンノキは、まわりの常緑樹が繁つてくると、その陰で枯れてしまう。

三浦半島では、いま、森全体の高木化がすすみ、ハンノキは衰退し、自生のものをほとんど見かけない。

私たちの誕生していない、はるかな太古から生存していたハンノキを、現代という短い年月で絶滅させてよいものだろうか。

ハンノキの住む環境を守ることは、植物が無くては生きられない私たちの、当然のつとめである。

少し斜めになった日射しの中で、いつまでも輝くハンノキ平であることを願うのだった。

世界の至宝といわれる世界遺産指定、カンボジアのアンコール・ワット、それは仏教とヒンズー教の広大な石造遺跡群。1850年代に統治していたフランス人の宣教師によって、深いジャングルの中から発見された。約900年前に、100基ちかくの寺院や石塔が建造されたものである。

数十カ所を細かく見学したら1週間は必要といわれるが、私たちは能率よく車を利用して2泊3日の行程で巡り歩くことにする。欧米人は、手軽にバイクタクシー（2輪バイクの後部荷台へ乗り不安定で危険）を多く利用している。

アンコール・ワットの拠点であるカンボジアのシエムリアップへは、乗り継ぎ便のよいタイのバンコック経由で行く人が多い。私たちは、小雪が舞う関西空港からベトナム航空へ搭乗、ベトナムのホーチミン・シティ（旧サイゴン）で乗り換え。カンボジアの首都プノンペンへ夜遅く到着。屋外へ出ると、ドッと汗が噴き出るような蒸し暑さで気温35度。

翌日、プノンペンを半日市内見物し、ジェット機1時間でやっとアンコール・ワットの拠点であるシエムリアップへ着く。バスの場合は、悪路250キロを10時間の走行となり、途中山賊が出るという悪い噂もある。

まだ日も高いので、念願のアンコール・ワットへ向かうことにする。途中料金所があり、この国の人たちは無料で通行自由。私達外国人は、アンコール遺跡群へ全てに通用する1日券20米ドル（約2200円）。7日間通用券は60米ドル（約6600円）である。常時チケットを携帯しないと、7日間分を徴収すると各所に英文での注意掲示板がある。公開時間は朝5時から18時30分まで。

アンコール・ワットとは、「大きい寺」の意味で、古代クメール王朝が築いたヒンズー教の寺院であり王の霊廟である。汚れやすいのでハイキングの服装、足元は暗いのでライトを使用する。灼熱の空を衝いて聳える尖塔群、その影を映す広大な水濠は幅190メートル、周囲5.4キロメートル。中央尖堂をぐるりと囲んで、クメール軍団や当時の生活、神の世界を描いた絵物語風の石のレリーフがびっしりと刻み込まれている。ピラミッドにも匹敵する、偉大な文化遺産といった美の第1回廊（180メートル×2面と200メートル×2面）がある。

塔門の壁面に刻まれた無数の妖艶なデバター（女神）たち、かつて王宮の女官や舞姫がモデルであったという。滞在中のホテルで演じられた、民俗舞踊の踊り子たちの美しい古代衣装がこのデバターと全く同じであった。第2大回廊（100メートル×2面と115メートル×2面）を見て、最高峰の中央尖堂は高さ65メートルへ。第3回廊（60メートル×4面）へ向かって人の昇降を拒否するような急峻な階段となる。片側のみに設置された観光用パイプの手摺りを伝わってなんとか昇っていく。地元の子供たちは、この見上げる急峻な恐ろしい階段をスイスイと登り降りして笑っている。

建物は、人びとの住居を仮定したものでなくヒンズー神や仏を祀る王の霊廟として建設されたものである。

遺跡は、成長逞しい旺盛なジャングル等に覆われて、長い間の眠りについてしまったものである。日本を始めフランス、イタリア、中国、アメリカ等の援助で今も遺跡調査、保存チームによって復旧工事が今も続けられている。

祖父川 精治

メモ

地雷「LANDMINE」現在、地球上に1億から1億5千万個が埋設され、毎年数万人が被害を受けている。更に、各国では毎年数十万個が埋設されていると伝わる。町工場のような小規模事業所でも大量生産できるといわれる。そして、今でも政府側と反政府側で双方共に地雷を撒き散らしルールなき戦争といわれる。

アンコール・ワット周辺でも、地雷で損傷を受けた足の不自由な人々を多く見る。損傷させて残忍さや恐怖心を訴えた方がより戦術的であるともいう。価格は1個2ドル（約220円位）で、缶詰風のものやプラスチック製がある。金属探知機を使わず除去費用も1個当たり、平均で1万円。敵味方も見境なく、じっと踏みつけられる瞬間を待っている。埋設未調査地域では、青空トイレのため不用意に草叢へ飛び込むのは非常に危険である。



地雷危険の標識



小型のものは缶詰と同じ

●●●今日の小網代●●●

◆1月15日(金)

ユネスコ無形文化遺産と国指定重要無形民俗文化財のチャッキラコを見に行きました。帰りに、小網代の森へ行きました。うっすらと昨夜の雪が積もり、静かな森中でした。出合った野鳥をメモしてきました。双眼鏡は必携です。いつもの所でミサゴ(オスプレー)、アオサギ、ジョウビタキ、ムクドリの大群。あとは私の知識では不明です…。 [S]



◆12月25日(日)

クリスマスの午後、森は光と静寂につつまれていました。谷の入口を入った途端、鳥たちの楽園。急いで出てきたので、双眼鏡を忘れてしまったのがなんとも残念。

管理作業をしている調整会議の若者二人と1組のカップルに出会ったのみで、あとはのんびりゆっくり気ままに谷を下る。半日広場の茂みの中に、四脚動物らしき足音。じっと息をこらすも姿は見えず。

えのきてラスで日向ぼっこしていると今度はリスの声。近くまで行き木々の間に目をこらすと、は、走り回っている！群れをなして走り回っていたんです！とうとうここまで来たんですね。そのうち、えのきてラスのお客さんに挨拶しにくるかもしれませんね。

干潟にまわると、オオシマザクラにたくさんのヒモミノが発見。サクラにもつくことがわかりました。大好きな木が弱らないか、ちょっと心配です。

大蔵緑地の奥の谷、すっかり整備が進んでいました。支援企業: 楽天株式会社
作業団体: NPO小網代野外活動調整会議
という看板も立っていました。

そのまま北尾根の階段を上り、帰路に。途中、ピョー、という声。そういえばアオゲラだと教えてもらったけど、一度も姿を見たことない、本当かしら、とっていました。その途端、そばの木に一瞬だけとまって飛び立っていったヒヨドリではない鳥！
ポンちゃんだ！
(とりばん <http://morning.moae.jp/lineup/14> 参照)

ということで、一人で歩いてもなかなかエキサイティングな森歩きでした。年末大掃除もしないで、来て良かったです。来年の交流会がますます楽しみになりました。須藤さん、別府さん、よろしくお願いします。 H.N

◆1月31日(火)

好天に恵まれたので久しぶりに小網代に行ってきました。小網代漁港に車を駐めて河口の鳥を見てきましたが期待以上に色々な野鳥に出会えました。一眼レフは重たいので高性能なデジカメを持って行きましたので下記の鳥を写すことが出来ました。ハジロカイツブリ、オオバン、アオジ、ミサゴ(2羽)、ノスリ、アオジ、ツグミ、シロハラ、カワラヒワ、モズ、スズメ
参考までにハジロカイツブリとミサゴの写真を添付します。 S.S



◆12月2日(金) 少し急ぎ足で森を歩きました、小網代の森らしい紅葉を見るのは数年ぶりのことです。ハゼの赤は盛りを過ぎたようですが、黄色、オレンジ色、淡緑色、濃緑色の重なりは綾なす錦の織物。見え隠れする鳥の姿、小鳥たちは大忙しのようです。対岸の木の上にアオサギの姿を発見！ 以前は森を訪れるたびに100%近い確率でアオサギの姿を見ることができたのに、今はすっかりカワウ・ウミウにとって代わられています。私としてはアオサギの方が良かったです！ M.H

小網代を詩う

かくれんぼ

枯草のしげみでアオジが動くのを待つのは
干潟でチゴガニが出てくるのを待つより難しい

中井 由実



素早く 軽く動ける鳥が
枯葉になりきって隠れるさまは
いつも驚きだ

だるまさんがころんだ

冷たい風の中
また 負けて鬼になるのは私

鳥の日

図鑑の写真を切り取ったような
水の上のオオバン
でも、望遠鏡の丸の中のその鳥は
しきりに首を回している
ふいに くるりと水中に消えた
そして 何の前触れもなく
手品のようにボートの反対側に現れた

中井 由実

湾の向こう側の白い木は
ウミウが作った石膏彫刻
海面をかすめて急降下を繰り返すミサゴは
餌を取っているのではなく
タッチ&ゴーで遊んでいるのだろう

久しぶりに会う鳥博士の同行
いつもの小網代が
今日は鳥の日になる



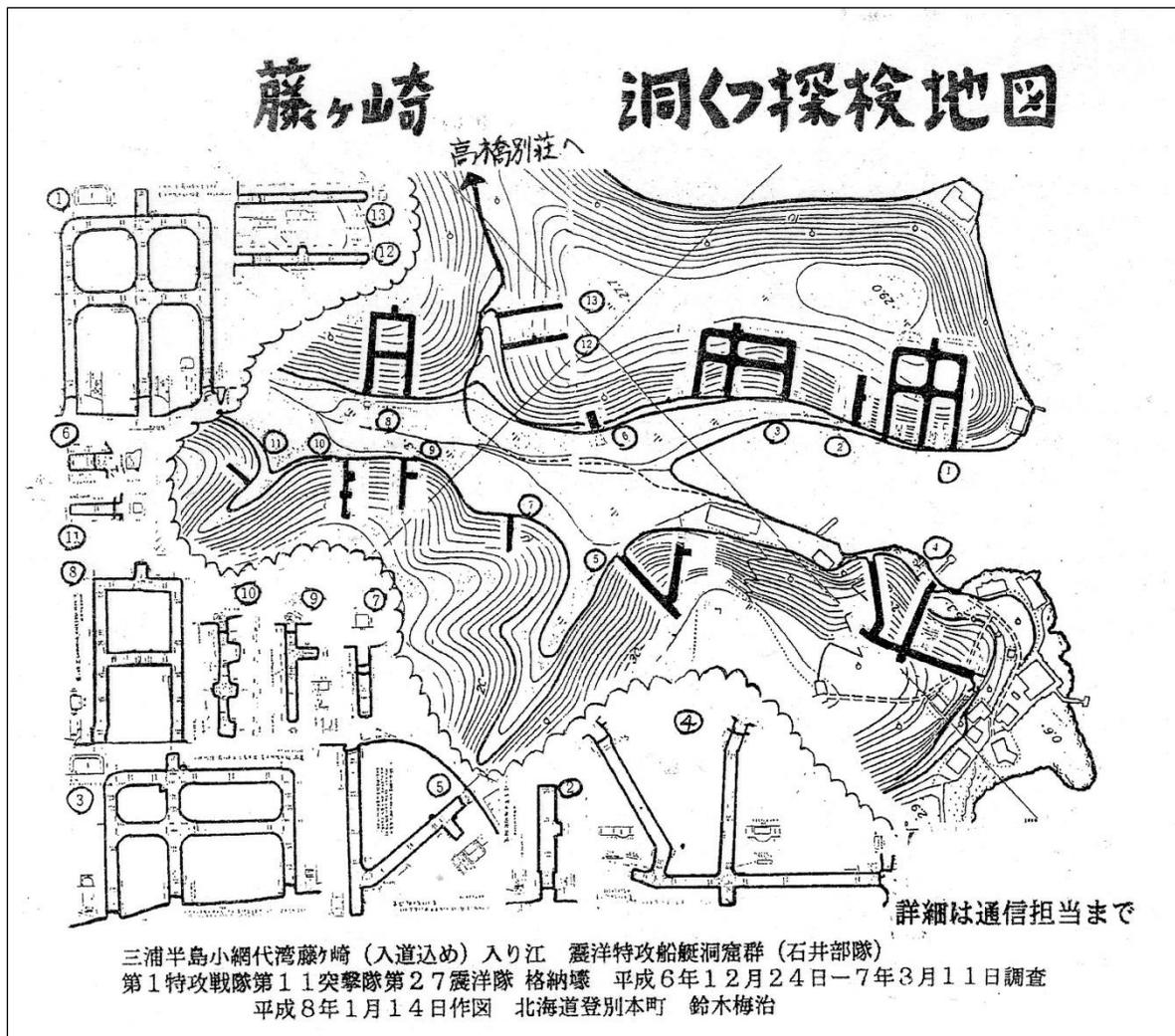
こゝろ あら・か・る・と

森を巡る逸話を不定期で 宮本美織 記

2017年2月5日、早朝観察で第一次の野鳥観察隊を小網代漁港で待っている時、昭和元年生まれという89歳のKさんが話しかけて下さいました。「俺は散策路ができてからは森へは行ってないよ。」「戦争中にはガンダに兵隊が一杯いたよ。」「えっ。震洋隊の洞窟は誰が掘ったんですか。ご存知ですか?」「兵舎を作って住んでいたよ。」「あの穴は地元の人が掘ったのですか。」「いや、違うよ。」「やっぱり朝鮮人を連れてきて掘ったんでしょうか。」「まあ、そうだね。」

横須賀市の貝塚遺跡は朝鮮人の方々を強制的に連行してきて掘らせたと聞いていたので、もしかしたら、この藤が崎もそうかもしれないと長い間考えてきたのだが、今、その疑問が氷解したのだ。地元の戦争中の動きを書いたものにこの藤が崎の洞窟掘の話が記録されていないように思われたのだ。探しても出てこない。聞いても出てこない。10箇所以上はあると思われる洞窟の跡だ。かつて道バトと称して藤が崎にある大きな3つ洞窟を探検したことがあるのだが、歩いているうちに北尾根からガンダへいく道の南側の谷底に南に向って掘られた10mほどの洞窟が2本。湿原へでも三戸側の別荘の近くの崖にも3本あるし、ガンダの湿原の両側に大小いくつもの洞窟があった。それぞれ役目がありそうで、人が掘ったものだ。誰が掘ったのか誰が兵士として役目についていたのか、松輪の震洋隊については記録があり、木村礼子さんによって出版もされ記念碑が同窓生によって松輪の福泉寺に建立されている。他方、この小網代湾の藤が崎に造営された震洋隊については僅かな記録しか残されていない。先ほどのKさんを尋ねて出来るだけの記録を残さなければいけないのではないかと考えていると小網代の森を守る会時代1996年にであった市井の戦跡研究者のことを思い出した。鈴木梅治さんとおっしゃった北海道の方は全国の戦跡を辿ってその跡を地図におとしていた。干潟でであって話をしているうち、以下の研究成果を惜しげもなく渡して下さいました。以下に鈴木さんがたった一人で懐中電灯を頭につけて、測量した図の縮小したものを掲げてみた。大きな原図に近いものを渡してくれた時、これを生かさなくてはと思ったものだ。その後、鈴木さんは阪神淡路大震災の手伝いボランティアに行く予定だと話してくれた。きっと一人でも活躍されていたのだろう。

今のこの戦跡が保存できたらよいと思うのは私だけだろうか。



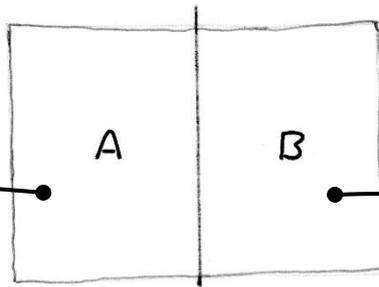
ミニ額縁の作り方

野内眞理子さんの植物画を展示するときに、額縁を手作りしたことは前にもお伝えしましたが、紙を切ったり貼ったりして額装を完成させていくのが楽しくて、ハマりました！ 折り紙でL版のサイズを作り、厚手の上質紙でハガキのサイズをと、たくさんできすぎたのでプレゼントにしたら思いのほか好評でした。この楽しさをより多くの方にお分けしたくて、作り方公開です。お子さまにも作れますよ！

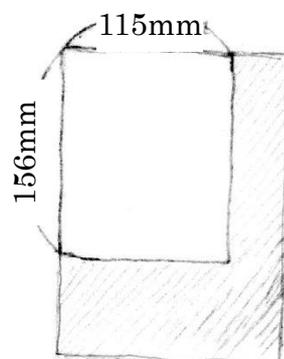
用意するもの(ハガキサイズの額縁1個分)

- ・A4用紙 1枚
- ・のり
- ・セロテープ 44~45cm くらい
- ・カッターナイフまたはハサミ
- ・定規

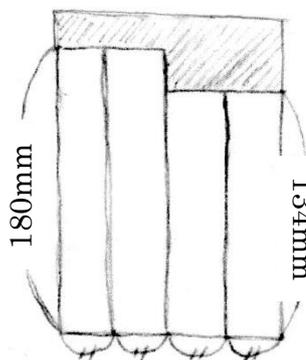
① A4用紙を半分に切ります



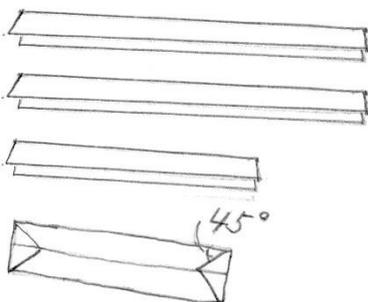
② Bを指定のサイズに切る
(ハガキを入れるポケットになります)



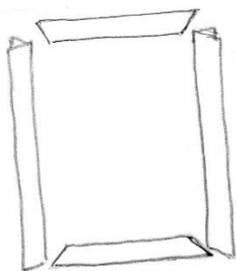
③ Aを4枚に切る



④ 縦半分に折る
短い方の両端を折り込んでのりしろを作る

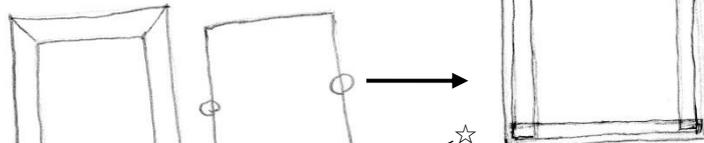


⑤ 折り目の開いている方を外側にして短辺側のピースで組み込むように貼り合わせます

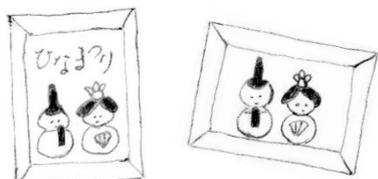


※ この部分をテープでぶさがないように1mm くらい貼り残します

⑥ Bの紙を貼り付けてポケットを作ります
3か所をセロテープで貼り付けてできあがり



タテ型のハガキもヨコ型のハガキも OK



クリップを付けて吊り下げたり、画びょうやマグネットでピンナップしたり、お誕生日カードを入れてプレゼントにしたり、使い方無限大、うんと頑張れば自力で立つこともできるらしい？

☆ ちよっとひと手間

葉書を透明フィルムの袋に入れてから額のポケットに入れるとすれにくく、絵がきれいにみえますよ

(作り方オリジナル: 高橋伸和、アシンジ: 橋 美千代)

お問い合わせはこちらへメールで: koho@mori-club.com

昔 奄美大島の西へ隣接する、加計呂麻(カケロマ)島へ渡りました。ここにも、震洋の秘密基地があり、洞窟内へ復元した震洋艇が保存されていましたよ。島には、「男はつらいよ」のロケ地の碑もありました。相手役は、アサオカルリコさんです。

(祖父川精治)

質問コーナー



みんなで考えよう感じよう！自分で考えよう！考えたら言い合いっこしよう！

第6回

今回は・・・花の巻



春は出会いの季節編♡

●花はなぜ、咲く時期がわかるのだろう？



ふあら

どうしてかしら、私たちも時とともに成長したり、老いたりします。その時の流れを花や木や草は全身でうけとめ体現しているのかな？

植物ってのは、地面に根がもぐっているでしょ。太陽の光が強くなると地の中があつまって息苦しくなるの。だから葉を広げたり、花をひらいたりして吹き出る汗をぬぐっているのさ。



しいの実

●とうもろこしは1本だけ植えると実がならないってほんと？



みーちゃん

ほんとよ。一本のとうもろこしの先にオシベの穂ができる。その下の茎の脇に雌しべをもった小さなとうもろこしの元のようなものができる。風が吹くとオシベの花粉が飛んで下にある雌しべにつくんだけれどもね。自分の花粉は自分の雌しべにつきにくいのだ。しかも、成熟の時期が多分、違うんだよ。成熟した雌しべに出会うのが難しいのは人間界も同じだね。これほんと。

ひとりだとさびしくてなにもできなくなるんじゃないの？



ふあら

●草や木には雄雌があるの？花に男女の別はあるの？

こあじろでは「アオキ」とか「フキ」とか「アカメガシワ」とか「ウラシマソウ」とか雄と雌の株があるよね。1つの株に両性があったほうが手っ取り早いと思うんだけど、どうして別々になっちゃったんだろう。ドラマチックな出会いを求めているのかしら。



はる



みーちゃん

男女の花と言えば、蕎麦の花が面白い。雌しべが普通で雄しべが短い花と雌しべが小さくて雄しべが普通の大きさの花が半分半分に咲いていると言う。花に男女の役割を別々に持たせてあるんだ。今度、蕎麦の花畑でよく見てみたいな。これ本当かしら？

●性転換をする植物があるって聞いたけど本当？

以前に「小網代つうしん」で深田晋一さんが「ウラシマソウの性転換」小網代つうしん No.56、1999年6月3日発行という小冊子の中に書いてあったけど・・・。
株が小さい頃はほとんど雄株で仏炎ほうという水芭蕉に似た白い大きな包みを持ち、そうそう、ウラシマソウはその先が細長い釣り糸のように見えることからその名がついたそうだよ。その中に雄の花だけ要するにオシベだけを持った花をつける。そして株が大きく育ったものを見ると中に雌花だけを持った株が見られるんだ。中には両方の株の特徴を持っているのにも出くわすよという。十分にメスは栄養を蓄えて出産に備えられる資格が必要なんだね。これは、深田さんのレポートにはなかったことだけれどもね。その上、雄しべのたくさんできた株の仏炎ほうの底には小さな穴が開いていて上からはいった昆虫が下からたくさん花粉をつけて出られるようになっているんだ。そして、メス株に入った昆虫は足につけた花粉を上から雌しべにつけて、入り込み底からは出られない迷宮になっているらしい。誰がこんなことを考えたのかしら？こんな例はイヌビワとイヌビワコバチの関係にも似たようなことがあって、昆虫と植物とが共に進化したなんて言っているみたい。



みーちゃん

夜に冷たい雨がふっても

夜に冷たい雨がふっても、翌日の地面がほっこりと暖かく感じられるようになり、日差しが強くなって、夕方の時間がだんだんとほの明るく感じられる、こんなとき、小網代ではもう春がはじまっています。

まだ寒い中、最初にちいさな花をさかせてくれるのはヒメウス、フキノトウはまるい緑のかたまりが顔をだしたら、すぐに茎をたちあげてちいさな花をさかせます。日当たりのよい土手にはスミレがどんどん咲はじめ、青い星のようなルリカラクサが足元に咲き、木の根本にはシュンランがひっそりとかくれています。

木々の枝先は、うっすらと緑に縁取りされたかと思うと、あっという間にその緑が濃くなっていきます。すぐに山桜が満開になり、みるみるうちにゆたかな緑におおわれる小網代。水たまりにはオタマジャクシ。カエルやウグイスが鳴き交わし、わたりの鳥たちもやってきます。木々の葉がゆれるなか、藤の花が今年はどうな姿で私たちを迎えてくれるのでしょうか。

ほんとうに、木々や花たちはどうして咲くときや芽ぶく季節がわかるのでしょうか？
わたしたちはどうしてそんな中にいると幸せを感じるのでしょうか？
不思議なことばかりです。

鈴木カヲル



おもしろ Q&A の Q も A もひきつづき、募集しています！！

- ◆投稿先 eメールで：
watashitachino@mori-club.com
- ◆ファクスで：03-3774-9704
ファクス専用機です。
24 時間受信可能！
- ◆交流会でスタッフへ手渡しで

企画：森くらぶスタッフ
進行：会員のみなさま

次回は

- ・ 植物には感情があるのだろうか？
- ・ 音楽をきかせるといいっていうけどほんと？
- ・ 木をきるとすごく疲れるけど、ひよっとすると木からなにかでてる？
- ・ どうして毒があるの？
- ・ ハーブと薬草の違いは？ などなど

こあじろの森くらぶ NEWS

◆スタッフの活動

- 11.27(日) 10:00～ スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
午後 通信第5号印刷・発送
- 01.11(水) 10:00 三崎口駅前 第5回交流会下見
- 01.29(日) 10:00～ スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 02.05(日) 第5回交流会 10:00 三崎口駅前 (朝早組)8:00 水道広場
終了後スタッフ会議
- 02.12(日) 10:00～ スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 02.26(日) 天神島プチ遠足下見
- 03.12(日) スタッフミーティング

●●● ご寄付ありがとうございます ●●●

祖父川精治様 橋美千代様 別府史朗様 須藤伸三様 廣川ひで子様 (五十音順)

以上の皆さまにご寄付をいただきました、大切に使用させていただきます。

●●● 第6回交流会の予定 ●●●

小網代の春を探す！

聞いて、探して、見つけて、絵でがみも描きましょう

三崎口駅前からバスに乗って、引橋で下車。鳥の囀り、陽だまりに咲く花、馥郁と森を満たす春の香り、鳥の囀り、カエルの声、全身に小網代の春を感じてリフレッシュしましょう。

この日の思い出に絵手紙を描いて、さあ、どなたに送りましょうか？

開 催 日 : 2017年4月29日(土)
*荒天の場合は中止します

お待ち合わせ : 10:00 三崎口駅前 14:00 頃散会

持 ち 物 : お弁当、飲み物(あれば、愛用の画材、図鑑など)

対 象 : 「こあじろの森くらぶ」会員とそのご家族、ご友人

* 保険はありませんので、ご参加は自己責任でお願いします。

こあじろの森くらぶ通信 No.6

2017年3月26日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地: 〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: info@mori-club.com (高橋)

046-889-0067 (仲澤)

URL : <http://www.mori-club.com>

年会費: 1000円(7月～6月 入会金不要)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203